

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	萩巣ゼミ	チーム名	出生班
タイトル	出生率低下の要因についての一考察		
テーマ群	c)公共経済		
メンバー	小椋匠真，紀伊康平		
研究計画内容	【研究背景】 近年、日本では少子化の進行が深刻な社会問題となっている[1]。少子化に影響を与える要因として、非婚化・晩婚化及び結婚している女性の出生率低下などが考えられる。少子化が進行すれば、将来的に労働力人口の減少を招き、日本経済の持続的成長に悪影響を及ぼすことが懸念される。こうした背景のもと、本研究では「労働時間の長さ」が出生行動に影響を与えているのではないかという仮説を立て、労働時間と出生の関連性を明らかにすることを目的とする。 【研究内容】 本研究では、2022 年に実施された「第 14 回 生活と意識についての国際比較調査」「健康と暮らしについての調査」のデータを用いる。これらのデータの中から、出生・子どもに関する指標と、労働時間・勤務形態などに関する変数を抽出し、統計的手法（主に回帰分析）を用いて両者の関係性を明らかにする。具体的には、既婚者や子どもの有無を従属変数、週あたり労働時間などを独立変数とし、性別・年齢・学歴などをコントロール変数としてモデルを構築する予定である。 【期待される効果】 本研究を通じて、労働時間が出生行動にどのような影響を与えているかを明らかにすることで、少子化対策や働き方改革に対する有用な知見を提供できると考えられる。特に、長時間労働の是正や柔軟な働き方の推進が出生率向上に寄与する可能性が示されれば、今後の政策立案にも貢献することが期待される。 【参考文献】 [1] 内閣府 「選択する未来」委員会報告 解説・資料集 （2015 年 12 月 2 日） https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/sentaku/index_pdf.html 【データ出所】 大阪商業大学 JGSS 研究センター「第 14 回 生活と意識についての国際比較調査」「健康と暮らしについての調査」		